

## 第38回リハ工学カンファレンスin東海 演題プログラム

1日目 8月23日(金曜日)

● 第1室 (S301室)			
GS6: ユーザー観察評価と開発 8月23日(金) 13:00-14:15			
GS06-1	車椅子用ユニバーサルアタッチメントの開発	渡辺 崇史	日本福祉大学
GS06-2	体をゆだねてリラックスできる環境での具体的変化と考察	村上 潤	NPO法人 ポップクラブ
GS06-3	座位姿勢計測装置を用いた車椅子での日常活動の評価	難波 邦治	吉備高原医療リハビリテーションセンター
GS06-4	長期療養病棟におけるモニターアームの導入	加藤 佳子	国立病院機構長良医療センター
GS06-5	強化ダンボールを使った家具による避難所の環境整備ー能登半島地震による被災地支援活動ー	繁成 剛	長野大学
GS8: 自立支援 8月23日(金) 14:30-15:45 第1室			
GS08-1	高齢者の坂道歩行の負担計測	小坂 菜生	兵庫県立福祉のまちづくり研究所
GS08-2	訪問福祉サービスのマッチングシステム『ふくはび愛知』の開発	松元 拓也	株式会社OLDROCKIE
GS08-3	エンジニアが医療保人グループの一員として補装具を提供する事業活動についての紹介	松田 薫	株式会社Arrangeチェアラボ金沢
GS08-4	テレビが聞けるラジオに関する代替手段の紹介	田中 芳則	なごや福祉用具プラザ
GS08-5	書字や食事を補助する自助具の紹介	一木 愛子	神奈川県総合リハビリテーションセンター
● 第2室 (S302室)			
OS1: デジタルファブリケーション 8月23日(金) 13:00-14:30 オーガナイザー: 松田健太(神奈川県総合リハビリテーションセンター)			
OS01-1	脳卒中患者の急性期リハに用いる3Dプリント自助具の開発	長谷川 朝哉	国立障害者リハビリテーションセンター研究所
OS01-2	作業療法介入におけるODSを用いた相互交流型自助具作成支援の可能性	田染 佐夏	平成博愛会 印西総合病院
OS03-3	可動域制限のある重度熱傷患者に対する自助具着の工夫	松田 健太	神奈川県総合リハビリテーションセンター
OS04-4	機械学習ソリューションMediaPipeを利用した下顎トラッキングによるボイシングデバイスの開発(第2報)	小林 博光	総合せき損センター
● 第3室 (S303室)			
GS7: 外出行動/アクセシブルトランスポーテーション 8月23日(金) 13:00-14:15			
GS07-1	車椅子種別が福祉車両利用時のシートベルト固定に及ぼす影響	石濱 裕規	医療法人社団永生会
GS07-2	「電動車椅子版 なび坂」の開発と評価	中村 俊哉	兵庫県立福祉のまちづくり研究所
GS07-3	多様な路面を呈する京都の史跡における電動車いすの快適性	赤松 智子	佛教大学
GS07-4	高位頸髄損傷者の沖縄旅行記	土田 浩敬	特定非営利活動法人ぼしぶる
GS07-5	LED式自動車前照灯の照射特性が及ぼす視野情報への影響	仮屋 孝二	第一工科大学
GS9: 車いす/姿勢保持 8月23日(金) 14:30-15:45 第3室			
GS09-1	キャスパーアプローテを用いた重度身体障害児の意思決定支援	彦田 純子	ベストサポート株式会社
GS09-2	車椅子に装着可能な電動ブレーキの製作	志智 直人	吉備高原医療リハビリテーションセンター
GS09-3	脳卒中左片麻痺者向けの車いすブレーキ・フットサポート操作への声かけ代償機器の即時効果	富樫 翼	中伊豆リハビリテーションセンター
GS09-4	日常の多様なニーズに応える床に置いてもフレームに載せても、車載用としても使える座位保持装置	新元 潔	株式会社アシスト
GS09-5	在宅で生活しているデュシェンヌ型筋ジストロフィー患者に対する車いすシーティング	弓岡 美咲	国立病院機構長良医療センター

2日目 8月24日(土曜日)

● 第1室 (S301室)			
GS10: インクルーシブ教育・教育支援 8月24日(土) 9:00-10:15			
GS10-1	インクルーシブデザインで作製された実験室流し台使用時の3次元動作解析	尾上 弘基	東京大学
GS10-2	イタリアのインクルーシブ教育における排泄環境～特別支援学校・通常学校内トイレの事例報告～	植田 瑞昌	日本女子大学
GS10-3	障害児にも配慮した誰もが学び楽しめる『動物を介した社会教育施設』の研究 第二報～動物園関係者からみた障害児・者への配慮等に関する課題と要望～	植田 瑞昌	前国立障害者リハビリテーションセンター研究所(現日本女子大学)
GS10-4	障害児にも配慮した誰もが学び楽しめる『動物を介した社会教育施設』の研究 第三報～動物園へのアンケート調査結果から見えた課題～	植田 瑞昌	前国立障害者リハビリテーションセンター研究所(現日本女子大学)
GS10-5	一人一台導入後の学習環境の変化について	林 昌弘	愛知県立小牧特別支援学校
GS12: スポーツアクティビティ 8月24日(土) 10:40-11:25			
GS12-1	新しい体育と文化芸術の融合“パラブレیکن”の取り組み	松田 靖史	川村義肢(株)開発部K-Tech・大阪大学大学院
GS12-2	VR型チェアスキーシミュレータのための機体の提案と試作	小枝 瞭介	金沢工業大学
GS12-3	VR型チェアスキーシミュレータの臨場感向上についての考察	田村 善伸	金沢工業大学
GS12-4	チェアスキー滑走中の3次元動作分析 —健常者と背損者の比較—	玉垣 努	神奈川県立保健福祉大学
GS14: 生活空間デザイン 8月24日(土) 14:40-15:55			
GS14-1	頸髄損傷者の至適湿度範囲に関する研究—中間期、且つ相対湿度40%での至適湿度範囲について—	三上 功生	国立障害者リハビリテーションセンター研究所
GS14-2	家族みんなの暮らしに伴走する二世帯住宅への増築リフォーム—状況の変化に幅広く対応できる余白を持たせた住まい—	天米 穂	株式会社神崎工務店
GS14-3	在宅生活における内部障害者の評価と住宅改造	佐藤 晃	名古屋市総合リハビリテーションセンター
GS14-4	人工呼吸器を使用している医療的ケア児の住環境に関する研究 その1—保護者が抱える住生活上のストレスの実態と満足度—	西村 顕	横浜市総合リハビリテーションセンター
GS14-5	人工呼吸器を使用している医療的ケア児の住環境に関する研究 その2—医療的ケアに必要な物品量の実態—	大泉 江里	SMA家族の会
● 第2室 (S302室)			
OS2: 海外協力・協同・支援 8月24日(土) 9:00-10:40 オーガナイザー: 佐野光彦(神戸学院大学)			
OS2-1	発展途上国の障がい者支援—バングラデシュを中心として	佐野 光彦	神戸学院大学
OS2-2	ウズベキスタンで車いすとシーティングを考えた	片石 任	株式会社フロンティア
OS2-3	車椅子使用者の円滑な航空機利用にむけての勉強会から見えてきたこと	剣持 悟	川村義肢株式会社
OS2-4	バングラデシュの視覚障がい者教育とデジタル教科書	植村 仁	神戸学院大学
OS2-5	Assistive Technology Service Delivery Guidelines: A Scoping Review	カーン ムハマド メヘディ ハッサン	神戸学院大学
OS3: 介護ロボット 8月24日(土) 13:10-14:40 オーガナイザー: 富板 充(名古屋市総合リハビリテーション事業団)			
OS3-1	デスクトップロボットを用いた食事支援システムの試作	垣本 映	職業能力開発総合大学校
OS3-2	介護ロボット導入支援スキームを用いた障害者就労支援におけるSEM Gloveの活用と効果	富板 充	なごや福祉用具ブラザ
OS3-3	名古屋市介護ロボット導入効果検証事例報告	長尾 美幸	なごや福祉用具ブラザ
OS3-4	名古屋市介護ロボット等活用推進事業の報告	長東 晶夫	なごや福祉用具ブラザ
OS4: スポーツ 8月24日(土) 15:00-16:40 オーガナイザー: 大河原裕貴(名古屋市障害者スポーツセンター)			
OS4-1	車いすユーザーのセルフトレーニング	伊佐 拓哲	ジェイ.ワークアウト株式会社
OS4-2	車椅子でボールを蹴り楽しむためのフットガード「ファンガード」(商品名)の開発	中村 詩子	横浜市総合リハビリテーションセンター
OS4-3	車椅子ソフトボール競技車製作の報告	酒井 靖史	東名ブレース株式会社
OS4-4	パラサイクリングにおける自転車の改造	荒賀 博志	日本福祉大学
OS4-5	上肢障害者のアーチェリーにおける射撃方法について	大河原 裕貴	名古屋市障害者スポーツセンター

● 第3室 (S303室)

GS11：支援技術のための調査／解析 8月24日(土) 9:00-10:15

GS11-1	openface による車椅子座位姿勢の解析	阪上 雅昭	京都大学
GS11-2	座位環境の違いが健康成人における上肢課題中の姿勢安定性と筋活動に及ぼす影響	高田 勇	金沢大学附属病院
GS11-3	車いすの設計支援を目指した身体3Dワイヤフレームモデルの開発研究	塚田 敦史	名城大学
GS11-4	支援機器開発における医療専門職の関与実態—支援機器開発企業へのアンケート調査—	澤田 有希	帝京科学大学
GS11-5	障害者自立支援機器における新たな開発領域の開拓に向けた調査	城岡 秀彦	株式会社日本総合研究所

GS13：ケースシリーズ 8月24日(土) 10:40-11:25

GS13-1	側方移乗時の股関節外転・外旋運動が制御できず移乗自立困難であったが、熱可塑性ギプス包帯で作成したアーチ型の用具を使用することで側方移乗が自立した胸髄損傷例	野田 笑美	医療法人社団苑田会 花はたりハビリテーション病院
GS13-2	動作能力に合わせ短下肢装具を調整したことで立位姿勢が改善した不全胸髄損傷例	木幡 葉季	医療法人社団苑田会 花はたりハビリテーション病院
GS13-3	精神障害者の住環境整備の症例	下田 誠	名古屋総合リハビリテーションセンター

GS15：小児へのアプローチ 8月24日(土) 14:40-15:55

GS15-1	新生児から活用できる姿勢保持椅子	西山 慎一郎	株式会社アシスト
GS15-2	リラックスするからこそアクティブになれるという現象の言語化	向坂 愛理	株式会社Simpray
GS15-3	肢体不自由児の電動移動機器導入における記録と分析	藤田 ひとみ	日本福祉大学
GS15-4	0歳からの寝ると座るの姿勢保持 具体的なケース紹介	村上 潤	NPO法人 ポップクラブ
GS15-5	環境設定による肢体不自由児の座位姿勢の変化	大久保 雅弘	New Platform

● 第5室 (S306室)

IS18：インタラクティブセッション(発表) 8月24日(土) 13:10-14:10

IS18-1	障害の程度が異なる3名の脳性麻痺者による同じ支援装置を共有しギター演奏練習をする試み	伊藤 克久	C-POWERグループ クリバラボ(Create Power Laboratory)
IS18-2	被災者の不安・ストレス軽減を目的としたロボット介在活動の検討 —aibolによる介入—	野口 裕美	四條畷学園大学
IS18-3	起立動作誘導・介助スキルアップ器具の考案	横山 哲也	神奈川県総合リハビリテーションセンター
IS18-4	札幌市の凍結路面におけるガラス繊維配合杖先ゴムの有効性に関する研究	香田 潤	株式会社つえくつ
IS18-5	MR(複合現実)を用いた住環境シミュレーションシステムの試作	江原 喜人	総合せき損センター
IS18-6	稲穂型歩行支援機の試作	鈴木 光久	名古屋総合リハビリテーションセンター
IS18-7	近接スイッチ(ファイバースイッチ)の再開発と機能の追加	伊藤 和幸	国立障害者リハビリテーションセンター研究所

3日目 8月25日(日曜日)

● 第1室 (S301室)			
0S5 : ユーザー 8月25日(日) 9:00-10:35 オーガナイザー: 石田長武(わだちコンピューターハウス)			
0S05-1	松葉杖使用者が電動車椅子を併用することで見えてきた意義と課題	金井 謙介	神戸学院大学
0S05-2	訪問介護における多言語コミュニケーション支援ツールの効果と課題	近藤 佑次	愛知県重度障害者の生活をよくする会
0S05-3	「筋ジストロフィー患者にとって大切さと喜び - 非侵襲的人工呼吸療法(NPPV)と車いすシーティング(ABS)」	足達 恵理	筋ジス患者「団結の会」
0S05-4	名古屋城木造化によりエレベーターが設置されないまたは不十分な設置について	小川 直人	社会福祉法人 AJU自立の家
● 第2室 (S302室)			
GS16 : コミュニケーション/入力支援 8月25日(日) 9:00-10:35			
GS16-1	スイッチインターフェースのワイヤレス化について -MaBee・micro:bitを用いた簡易なシステム構成-	木澤 健司	東京都立水元小舎学園
GS16-2	コンピュータ入力装置のための画像処理技術	六名 泰彦	吉備高原医療リハビリテーションセンター
GS16-3	聴覚障害者のためのRaspberry Piを用いた発言者特定システムの開発	中村 伸一	日本福祉大学
GS16-4	離れた場所にて会えない人とのコミュニケーション方法	高橋 宜暉	一般社団法人結ライフコミュニケーション研究所
GS16-5	スイッチブスター導入事例のその後	上野 忠浩	横浜市総合リハビリテーションセンター
● 第3室 (S303室)			
GS17 : 支援機器開発 8月25日(日) 9:00-10:35			
GS17-1	シュクレN・Nextの導入事例と汎用性について。	村上 玄	株式会社アシスト
GS17-2	技術による地域課題解決の取り組み	藤澤 義範	長野工業高等専門学校
GS17-3	炭素繊維強化熱可塑性プラスチックを用いた両側支柱付き短下肢装具製作方法の紹介	早川 康之	北海道科学大学
GS17-4	真空エジェクタを応用した呼吸管理中の患者のための空気供給装置の提案	大恵 克俊	日本文理大学
GS17-5	AIを利用した対話型アセスメントツール「ATチャットボット」の開発	関 裕基	早稲田大学